

研究の概要

本校は、昨年度「『道徳教育改善・充実』総合対策事業」研究指定校として道徳科の授業づくり、カリキュラム・マネジメントを取り入れた道徳教育について、研究を進めてきた。道徳的価値について深く考えたり、自問自答を行ったりすることで自分を見つめ直したり、自分の考えを進んで表現できる児童は増えた。しかし、自己肯定感を高め、行動に移すことについてはまだ十分ではない。

また、本校の児童は、明るく素直で、指示されたことには責任をもって取り組むことができるが、自分から進んで行動することができにくい。いろいろな場面で自分の思いを明確にしながら発信していくことが苦手な児童もいる。誰かを思いやる気持ちをもっていても行動に移すことができていない児童や、友だちの世話をするという感覚で行動する児童もいる。

これらのことを踏まえ、今年度は、自尊感情を高め、共感する力や思いやりの心、協力し合う態度を育て、よりよい人間関係をつくることのできる児童の育成を目指すために、「特別の教科 道徳」の授業において、相互に交流する中で自分を見つめ直すことができるようにする。そして、いろいろな見方や考え方に接することで自分の考えを広げさせ自分の生き方についての考えを深めさせることとした。合わせて、異学年交流活動等の機会を増やし、よりよい人間関係をつくる力を育むことを進めている。

研究の方向性

「特別の教科 道徳」の授業の指導内容及び指導方法についての実践研究と、カリキュラム・マネジメントの充実を研究の中心に据えて行うこととした。

「特別の教科 道徳」の授業の指導内容及び指導方法についての
実践研究

カリキュラム・マネジメント

1. 「特別の教科 道徳」の授業
 - ・児童が相互に交流する中で自分を見つめ直す
 - ・児童がいろいろな見方や考え方に接することで自分の考えを広めたり深めたりし自分の生き方について考える
2. 自分の考えを伝え合い認め合える集団づくり
3. 道徳的心情を育てる環境づくり（地域との交流も含む）